

医療・福祉問題研究会会報

NO. 114
2013.8.13

医療・福祉問題研究会 第 112 回例会

日時： 8月29日（木）18：30～20：30

会場： 社会福祉会館4階中ホール（金沢市本多町3-1-10）

テーマ： 地域住民の介護問題の把握と介護保障の課題

—三重大学人文学部・医学部による地域住民の生活・健康調査から

報告者： 井口克郎さん（金沢大学大学院人間社会環境研究科・客員研究員、元三重大学人文学部・研究員）

2012年の介護報酬改定や、社会保障制度改革推進法にみるように、現在日本では介護保険制度の給付範囲を限定し、介護を自助や互助、共助の領域に押し戻す動きが加速化しています。国の進める地域包括ケア構想は、医療・福祉サービスを身近で受けられる体制づくりという積極的な面を押し出しつつも、他方では介護における公的役割や責任を軽減し、自助・互助・共助をいっそう求めていく側面があることに注意をする必要があるでしょう。

ところで、地域におけるケア（医療・福祉）システムのあり方を考えるにあたり、地域の住民の方々はどのような医療・福祉の問題を抱えているのでしょうか。また、仮に自助・互助で介護をする場合、それを実現するだけの客観的基盤は地域にどの程度存在しているのでしょうか。これらは、非常に重要な問題ですが、十分に把握され、議論されているとは言い難い状況です。

報告者も携わった三重大学人文学部「医療過疎地域における多次元的评价によるアラートシステムの構築」プロジェクトによる調査研究では、経済・社会的な要素（所得、働き方、性別・年齢、家族形態、買い物、住居、社会参加、受療行動、介護等）や健康状態を総合的に把握し、地域の人々の生活問題を可視化する取り組みを行いました。2011年に三重県内5市（津市、四日市市、志摩市、名張市、熊野市）の住民約1万8千人を対象に「地域づくりのための生活実態調査」を行いました。また、2012年には、同大医学部（家庭医療学）との合同で、津市白山地域において「白山地域の地域医療・保健・福祉に関する調査」（約3千人を対象）を実施しました。

今回の例会では、これらの取り組みの成果を紹介しながら、地域の中に潜在化している、人々の生活やケアの問題を中心にお話しし、これからの介護保障制度の構築に向けた課題を報告します。多くの方のご参加をお待ちしております。

2013年度総会報告

2012年度活動報告と2013年度活動計画を確認

7月6日、2013年度研究会総会が社会福祉会館において開催されました。総会では、まず、河野さんから「2012年度活動報告と2012年度活動計画案」、「医療・福祉問題研究会申し合わせ」改定（案）、広田さんから「2011年度決算と2012年度予算案」、河野さんから「雑誌会計報告」について報告・提案がありました。ついで、神田監事から「監査報告」がありました。報告をうけて、議論が行われました。

研究例会については、9月、「地域における医療・介護問題」について、井口克郎さんの報告を予定しています。今後のテーマとして、アベノミクスと社会保障「改革」、TPPと医療、原発被害と医療などがあがっていますので、世話人会で企画していくことになりました。また、10月5日に、スウェーデンの研究者が金沢に来られるので、例会あるいは特別例会として取り組みたいという報告がありました。

予算・決算については、一般会計から雑誌会計への繰入金の見直し（1人あたり1000円から1500円への変更）について報告がありました。『医療・福祉研究』第22号については、前回と比べて、ページ数が多くなり印刷代が高くなったので、第23号から90ページ程度にすることを確認しました。A4サイズということも考えられるのではないか、原稿の査読が必要なのではないか、という意見がだされました。

「医療・福祉問題研究会申し合わせ」改定（案）については、もう少し議論が必要なのではないかという意見がだされ、さらに検討していくことになりました。

以上の議論も含め、2012年度活動報告と2013年度活動計画などを出席者全員で確認しました。

総会につづき、記念企画では「あらためて貧困と生活保障のあり方を問う」をテーマとし、井上英夫さんに「憲法と生活保護」、伍賀一道さんに「雇用問題から見た生活保護」と題する講演のあと、フロアーからの発言をふまえて討論しました。



（文責 河野すみ子）

I 2012年度の活動報告

(1) 研究会総会記念

7月22日、松ヶ枝福祉館において総会を行い、その後総会記念事業として、田中明彦さん（龍谷大学）から「公的年金の原則と課題—皆年金の実現をめざして」をテーマに記念講演をしていただきました。その後、茶十来也さん（年金者組合）、津田康次さん（メンタルピア）を交えて、シンポジウム形式で議論を行いました。研究会としては、ここ数年、年金制度について取り上げてこなかったので、制度を理解し課題をあらためて整理する貴重な機会となりました。

(2) 研究例会

研究例会は、以下の4回開催しました。

第108回（9月17日）「障害のある人の相談支援における課題—現状分析と豊かなサービス利用に向けて」（河合隆平・金沢大学学校教育学類、村田南美・オープンセサミ城南）

特別例会（11月14日）「ノルウェイと日本—住まい、バリアフリー、そして福祉」（オーグ・ヴァレストッド・ノルウェイ在住）

第109回（12月22日）「雇用の劣化の現状とディーセント・ワーク実現への課題」（伍賀一道・金沢大学地域創造学類）

第110回（2月23日）「手持ち金0円からの受診相談—医療費相談からみえる貧困問題を通して」（伍賀道子、川合優・城北病院医療ソーシャルワーカー）

第111回（5月25日）「地域包括ケアとは何か—一国が進める地域包括ケアの実相」（橋爪真奈美（石川県保険医協会）

第109回例会は、研究会の25周年記念講演会として実施し、多くの参加者があり盛会でした。また、11月14日には、ノルウェイについて特別例会を開催しました。いずれの例会も充実した報告をしていただき、それぞれのテーマを深めることができました。

(3) 『医療・福祉研究』第22号の編集・発行

第22号を5月末に発刊しました。特集として「あらためて貧困と生活保障のあり方を問う」を組み、6人の方に執筆していただきました。研究会として大変お世話になった梶井幸代さんとフィリップ・クロードさんが亡くなりましたので、お二人と親交の深い井上英夫さんに追悼文を書いていただきました。

今回は、延べ21人の方に執筆をしていただきました。研究者の比率が今回はやや高いのですが、現場からも多くの原稿を寄せていただき、研究会らしい誌面とすることができました。

(4) 25周年記念事業

12月22日に、研究会25周年記念事業を行いました。まず、伍賀一道さんから「雇用の劣化の現状とディーセント・ワーク実現への課題」と題して記念講演していただき、そのあとスカイホテルで記念パーティを行いました。また、記念誌として『医療・福祉問題研究会25年の歩み』を発行しました。

(5) 社会保障学校

第7回社会保障学校が、11月25日に開催されました。研究会も実行委員会の一員として寄与しました。当日は、「憲法が輝く社会をめざして—新たな福祉国家を展望する」と題して、渡辺治さん（一橋大学名誉教授）、井上英夫金沢大学教授（当時）のお二人から、それぞれの講演とお二人で対談をしていただきました。分科会として、①貧困克服のために、②社会保障とはな〜に？③「一体改革」でどうなる社会保障の三つが開催されました。第2分科会では、研究所内の「社会保障基本法・社会保障憲章」研究会のメンバーが中心となって企画・立案を行いました。

開催は、6つの団体からなる実行委員会として準備にあたり、多くの参加者を得ました。憲法改正の動きが急を告げるなか、あらためて憲法と社会保障の関係について認識を深めることができました。

(6) 地域調査

金沢大学地域政策研究センターと連携し、珠洲市における公共交通問題についてヒアリングを行いました。公共交通の問題は、研究会が地域医療調査のなかで一貫して重要な課題であることを提起し続けた問題であり、今回もその深刻な実態が浮き彫りになりました。同時に、珠洲市が独自施策として公共交通を守る取り組みを具体化しつつあり、新たな展望もみられました。

(7) テーマ別研究会

渡辺治・井上英夫・後藤道夫編『新たな福祉国家を展望する』をテキストとする研究会が開催されました。

(8) 他団体との連携・共同

9月6日から3日間にわたって開催された公的扶助研究全国セミナー（メインタイトル「あらためて生活保護200万人時代の意味を問う」）に、実行員会として参加し、運営および分科会の助言者・報告者等として、運営を積極的に支える役割を果たしました。

(9) 研究会の運営

研究会の日常的な運営は、事務局を中心に行われました。月に1回のペースで事務局会議を開催し、研究例会の企画、『医療・福祉研究』の編集などを行ってきました。「会

報」は第 109 号から第 113 号まで、5 回発行しました。

会員は、前回の総会以降、新たに 6 人の加入がありました。退会は、連絡が取れない等の長期滞納者を退会扱いとしたため 53 人となりました。その結果、2013 年 5 月 31 日現在、会員数は 143 人となりました（一般 82 人、賛助 47 人、学生 14 人）。

II 2013 年度の活動計画

(1) 総会記念企画

7 月 6 日に総会を開催し、記念企画として、テーマ「改めて貧困と生活保障のあり方を問うー憲法と人権保障の危機を克服するためにー」と題して、井上英夫さんと伍賀一道さんの二人に報告をしていただきます。（井上英夫さん「憲法と生活保護」、伍賀一道さん「雇用問題から見た生活保護」）。

(2) 研究例会

研究例会を 4 回程度開催します（9 月、12 月、3 月、5 月の予定）。今回は、8 月 29 日に、地域における医療・介護問題について、井口克郎さん（金沢大学客員研究員）に報告していただきます。それ以降については、総会の議論を踏まえ運営委員会で議論して企画します。現在、候補として挙がっているテーマは、アベノミクスと社会保障「改革」、TPP と医療、原発被害と医療などです。

(3) 『医療・福祉研究』第 23 号の編集・発行

『医療・福祉研究』第 23 号を発行の編集・発行を行います（2014 年 3 月発行予定）。費用削減のために 90 ページ程度とし、特集、現代の焦点、現場からの報告などを柱に編集を進めます。編集・発行にあたっては、特定の個人へ負担が集中してしまう傾向が続いてきたため、編集部を拡充し、組織的に作業が進められるように改善を図ります。

(4) 社会保障学校

第 8 回社会保障学校が 11 月 17 日に開催される予定です。研究会として、引き続き実行委員会に加わり、企画段階から議論に参加します。研究会が主として責任をもつ分科会の設置を検討します。

(5) 地域調査

昨年度に引き続き、珠洲市の公共交通と医療について、金沢大学地域政策研究センターとの協力のもとで、地域調査に取り組みます。

(6) テーマ別研究会

研究会活動の幅を広げるために、新たなテーマによる研究会の設置をめざします。

(7) 他団体との連携・共同

「生存権裁判支援全国連絡会」の石川県での発足に全面協力します。また今秋に開催される福祉教育学会から協力依頼を受けていますので協力します。

(8) 研究会の組織強化

申し合わせを改定し、組織体制の整備をすすめます。運営委員会、事務局、編集部を拡充し、安定的な運営体制の確立を図ります。

「医療福祉問題研究会申し合わせ」改定（案）

- 1、事項4と5の内容を改定したうえで一つにまとめ、事項4とする。
- 2、上記の改定に対応させて、事項6を事項5とする。
- 3、新規に事項6を設ける。

（現行）

よびかけ（略）

事項

- 1、目的（略）
- 2、事業（略）
- 3、総会（略）
- 4、運営委員会：会の運営を円滑に行うため運営委員を定める。事業の日常的な執行を担当する常任委員会をおく。
- 5、事務局：運営委員会のもとに事務局をおく。
金沢市角間町（〒920-1192）
金沢大学経済学部社会保障論研究室（☎076-264-5426）
- 6、会費（略）

（改定案）

- 4、運営委員会：会の運営を円滑に行うため運営委員会をおく。
事務局：運営委員会のもとに事務局をおく。
金沢市角間町（〒920-1192）
金沢大学地域創造学類社会保障論研究室（☎076-264-5426）
- 5、会費（略）
- 6、会計年度：会計年度は6月1日から5月31日までとする。